

# 安田学園中学校高等学校

## 進学力と教育力で評価高まる 東京東部、学校完結型の進学実力校

安田財閥創始者の安田善次郎が創立した安田学園。2014年度に共学化。「学校完結型」の学習システムをいち早く推進し、国公立大を中心進学実績を伸ばしている。語学や探究活動にも力を入れ、部活動も全国レベルで活躍する。立地の良さもあり、高い人気を集めている。

**進**学実績が堅調に推移している。2025年度は国公立大へ67人の合格者を出した。GMARChの合格者が初めて300人を超える。早慶上理も100人を超えた。成果が出ることで生徒や保護者からの信頼が一層強まり、中学も高校も学力

上位の生徒が集まつてくる、そんな好循環が生まれ出されている。「国公立大への進学者が多いのは、幅広い進路の選択肢を残すこと」を意識し、全教科の学習を重視する姿勢を取っているからです。最近は、医学部や海外大学を志望する生徒も増えてきました。理数教育を強化するため、STEAM教育の導入や理科室の増設など、教育環境の整備を進めるほか、グローバル教育推進室を新設して、海外大学への

**生徒の学習意欲を高める**特に保護者からの評価が高いのは、学力を伸長させる「学校完結型」の学習システムを完結していること。実際に、塾に通わず難関大学に合格している生徒も少なくない。大切にしているのは、学習習慣と基礎学力の定着である。例えば中1～中2は週4回、英語と数学のテストを朝15分間行い、理解不足の生徒には放課後の補習が課せられる。英語と数学は単位数が多く、積み残しが出ると受験への影響が大きいからだ。補習になると部活動にも支障が出るので、生徒たちはプライドもあつて必死に取り組む。

また、年5回ある定期試験前は「授業力の向上を目的」の1週間は「独習ウイーク」とし、学習計画を立てて、朝と放課後の時間を学びに充てる。そう話すのは稲村隆雄校長だ。

対応や国際理解教育、研修企画などを一元管理する体制を整えています」

稲村隆雄校長は、「定期試験や到達度テストの結果を受けて、自らの弱点克服に向けた学習計画を立てて実行する。高校の後半になると、定期試験や到達度テストの結果を受けて、自らの弱点克服に向けた学習計画を立てて実行する。年3回の学期末テスト後は「独習デー」があり、定期試験や到達度テストの結果を受けて、自らの弱点克服に向けた学習計画を立てて実行する。

高校の後半になると、定期試験や到達度テストの結果を受けて、自らの弱点克服に向けた学習計画を立てて実行する。年3回の学期末テスト後は「独習デー」があり、定期試験や到達度

テストの結果を受けて、自らの弱点克服に向けた学習計画を立てて実行する。

高校の後半になると、定期試験や到達度

テストの結果を受けて、自らの弱点克服に向けた学習計画を立てて実行する。